

二十歳の誓い

小学生の頃の私は、「学校に行って勉強する」という当たり前のことが義務にしか思えず、勉強が好きではありませんでした。何をするときも楽な方、楽な方へと、流れに身を任せていたので、小学生の頃の記憶が不思議なくらいにありません。

そんな私が中学3年生の時、進路選択で先生から言われたのが「迷った時には険しい道を選べ」でした。「周囲から厳しいと言われても、想像で可能性を0にするのは勿体無い」先生のこの言葉に刺激を受け、必死に勉強し、希望の高校に入学することが出来ました。

高校では大好きな華道をやりたいと、仲間を集めて同好会を作り、「華の甲子園」に挑戦しました。このように「自分の意志を貫き、周囲を巻き込み、仲間を得て、目標を達成した」経験から、私には行動力があると自負していました。

しかし、それは単なる思い込みにすぎなかったのです。昨年9月、私は部活の先輩を突然亡くしました。亡くられる直前まで、なんら変わりのない時間を過ごしていたのに。急性の病気で21才で亡くられたのです。そんなにも早く終わりが来ることが分かっていたならば、謝りたいことや感謝を伝えたいことがたくさんありました。考えていても、それを言葉や行動にしなければ考えてないのと同じ。自分がこれまで自負していた「行動力」は、何だったのかと情けなくなりました。

私は今、寝る前に本を読み、新しい自分を生きるための言葉を探しています。先輩の分も、精一杯生きたいし、中身の濃い「今日」を、毎日積み重ねて行きたいと思っています。

意識せずにやった経験はいつか消えてしまいます。今、この瞬間は、これまでの自分がとってきた選択の結果です。だからこそ、普段から何事にも目的意識を持って、発想を実行に移す力をどんどん磨き、記憶に残る日々を歩みたいです。これを私の二十歳の誓いとさせていただきます。

今日は私たちのために、このような盛大な記念式典を開催頂きましてありがとうございます。心から御礼申し上げます。

平成31年1月14日 新成人代表 中城 毬恵